

会議録

1. 附属機関の名称 : 犬山城管理委員会

2. 開催日時 : 令和4年3月25日(金) 午後2時00分から午後3時30分まで

3. 開催場所 : 犬山市役所 5階 501・502 会議室

4. 出席した者の氏名

(1) 委員 日比野良太郎、長谷川良夫、成瀬淳子、宮田昭男、三浦知里
吉田鋭夫、大沢秀教、白水正、瀬口哲夫

(2) 執行機関 滝教育長、中村教育部長
歴史まちづくり課 中村課長、加藤課長補佐、渡邊統括主査
犬山城管理事務所 酒向所長、村中副所長、中島

(3) その他 山田市長

5. 報告事項

- (1) 令和3年度犬山城関連主要事業の進捗について
- (2) 犬山城入場登閣者数について

6. 議題

- (3) 令和4年度犬山城関連主要事業(案)について

7. 会議要旨

- (1) 令和3年度犬山城関連主要事業の進捗について

(事務局より資料に基づき、犬山城の保存活用に関する事業及び犬山城の管理に関する事業について報告)

委員長: 大手門枳形跡発掘調査の資料の明治元年大手門古写真には石垣が写っているが、大手門を復元するとなると、石垣も復元の対象になるのか。

委員①: 今秋の発掘調査では行っていない大手門や石垣の発掘調査は今後実施をするのか。

事務局: 大手門の両側に、かつては石垣があったが、大手門の復元については、形等はある程度わかる

が場所の痕跡が全くなくなっており、難しい状況である。発掘調査の予定も今のところはない。大手門の左奥には櫓になっている大手の二の門があり、また大手門の前は太鼓橋になっている。大手門辺りを撮った大変貴重な写真である。

委員①：今回の発掘調査で、大手門前の太鼓橋の橋台の4隅の内、今回発掘していない他の3ヶ所は石垣がないと断定できないが、将来的に発掘調査をするのか。

事務局：今後の整備の仕方によって変わってくる。東側は福祉会館の地下室の場所で下の方で残っている可能性はある。南の方が残っているかどうかというところである。

委員①：今後調査を拡大すると詳しく分かるかもしれない。

委員②：堀の位置は、埋めてしまった現状でわかるのか。

事務局：測量し座標で落としてあるので分かる。

委員①：いつから大手門の堀は絵図で確認されているのか。

委員②：分かる範囲では、正保の絵図からある。

委員①：石垣保護工事の実施設計について、石垣のネットはあくまでも仮設的、応急的な意味合いでいずれは積み直し等があるのか。いつの時代の石垣なのか。

事務局：文化庁との協議の中では、その石垣自体の価値を、全体と比べた価値づけを確認した上で根本的にどうするのか。上に建物があつ針綱神社の参集殿が建っている場所の下に孕みがある状況。建物が建ったままでは根本的な対策はとれず先の長い取り組みになるので、まずは応急的な保護工事という認識である。ネットを張る石垣は、近代の石積みではなく近世の時代のもの。

(2) 犬山城入場登閣者数について

(事務局より資料に基づき、前年度比について報告)

委員長：コロナの影響で、ピーク時である平成30年度の半以下になっている。令和2年度と3年度は同程度。令和3年度の9月は0人となっているが閉館していたのか。

事務局：令和3年度は、コロナの影響で8月末から9月は閉城している。

(3) 令和4年度犬山城関連主要事業(案)について

(事務局より資料に基づき、犬山城関連主要事業(案)の内容について説明)

委員②：黒門跡礎石発掘調査についてだが、登閣道には最初に中門があつて矢来門、黒門、岩坂門があり、最後に本丸の鉄門がある。そういう全体の調査をどうするのかという見通しがなく、黒門だけが突然出て唐突な感じがする。この黒門は現物が移築されており、白帝文庫に図面もあるので、確かに復元が一番しやすいが、中門や矢来門など他の門についても実際の場所は分かっていない。将来整備していくための総合的な方向性や見通しを作った上で本来やるべき話ではないのか。保存活用計画が以前に作られたが、別の整備委員会のような所でそういう方向性を出すことになっているのではないのか。

事務局：黒門が諸条件が一番揃っていることで、まずこれを一番に据え発掘調査をするが、決してこれで終わろうとしている訳ではなく、基本的には、今後大手門とかその他の各門の所も調査していきたい。調査整備委員会を立ち上げ総合的に計画作りをし、並行してこの黒門の礎石調査をまずやっていきたい。そして様々な結果が出て、全体に影響を与えるかもしれない。まずは、一回ここは見てみたいということで計画を提案させていただいている。

委員長：幾つかある門の全体像をイメージしながら、そこに順序立てて調査に入るのがいいのではないかという意見だと思う。黒門については色んな情報が豊富にあるので、一番簡単にやれるということではないのか。

委員②：恐らく見えている礎石2つは、現徳林寺山門の見えている柱の位置ではない。黒門は薬医門といって4本の柱で建っているので、この礎石がある位置というのは後ろの見えてない方の礎石だ。そうでないと左に曲がれなくなってしまうし、左側から人が入ってしまう。城門というのは隙間が無いものなので、石垣に沿って柱が斜めに立っていたはず。白帝文庫に10分の1の図があり、それで現場を測ってみると多少寸法が合わないの、社務所辺りの石垣が積み直しされている可能性もあると思う。調査は大変結構だが、是非全体の調査をお願いする。

委員③：移築された門・櫓の復元に向けた調査の中に、今井にある個人宅の門を犬山城から移築したことは間違いないので追加して欲しい。大変風格があり、大手門の辺りの侍屋敷の門かもしれない。

事務局：前回の総合調査報告書をまとめた段階では、今井の個人宅の門は入っていない。今把握している移築された門などは提示してあるものだけになっている。ご意見をいただいたので、認識をして、また何らかの追加資料などの確認をしていく。

委員②：拝見したところ長屋門なので、登閣道に沿った門ではなく御殿の門かもしれない。

事務局：過去に麓先生にも見ていただき同様な評価であったと記憶している。再度確認する。

委員長：明治の始め頃に櫓や門を解体し入札して材料を使ったので、今井の個人宅の門も同時期に移動したのではないか。

委員④：この管理委員会の位置付けについてだが、犬山城というものを論議して最終的に一定の方向性や結論を出すのは最上級機関である管理委員会である。市長、議会、色々な委員会、市民の皆様、そして所有者である白帝文庫、運営管理する犬山市とあるが、様々な意見を吸い上げて、その上で管理委員会に諮る、ということが非常に大事である。犬山城は、天守はあるが櫓や門がなく城郭としてのイメージが分かりにくい。何らかの形で移築なり復元が必要であり、やっとなら黒門がクローズアップされてきたところだが、今一度、管理委員会のありかたも含め、櫓や門をどういう順序で進めていくのか、石垣の順序、木の伐採の順序等をよく考え、委員に早めに書面で良いので通達し、最終的にこの委員会で十分論議するのが大事だ。

事務局：ここで簡単にものが建つわけではないというのは十分承知していて、1個1個調査をして事実を確認した上で進めていく。基本的には、調査整備委員会というのを立ち上げて、そちらでしっかり細かいことを議論して、文化庁が協議して、文化庁の復元検討委員会にかける。お城の本質的な

価値を担保、確認しながら進めて参りたい。全体の計画は調査整備委員会で作って、その後に管理委員会できちんと諮っていくという運びで考えている。是非、その都度、その都度、協議させていただき、ご指導いただきたい。

委員長：黒門調査については、まずは調査してみて、できた事実により次の段階を考えるということをお願いしたい。

○その他

※次回の委員会は、事務局の方から各委員の日程を調整し、文書等で連絡し開催する。